

県民の みなさんへ

熊本県知事
細川護熙



今年はこのほか寒い冬で、特に一月には三十九年ぶりと
いわれる大雪で農作物等に多
くの被害を受けました。被害

を受けられた皆様には心からお見舞
を申し上げます。県としては、
直ちに関係団体と一体となってその
対策に努力してきたところですが、
一日も早い立ち直りをお祈りいたし
ます。

ところで、私も知事就任以来まる
一年、厳しい行財政事情のなかでは
ありますが、積極的な県政を目指し
て精一杯の取り組みを行ってまいり
ました。

幸い、企業誘致もこの一年間で十
六社と順調ですし、各方面に御協力
をいただいているテクノポリス（高
度技術集積都市）構想もお陰で国の
指定の目途がついたところです。テ
クノポリス構想は単に商工業のみで
なく、農林水産業にもバイオテクノ
ロジー等を通じてその振興に期待が
もてるもので、地域の振興、県勢浮
揚に大きな可能性が開けるものと考
えています。

御承知のとおり、県議会では三月
定例会が開かれており、五十九年度
予算等について審議をいただしてい
ますが、新年度は引きつづき懸案の
大型プロジェクトを前進させると
もに、テクノポリスを主軸とする地
域の活性化、人づくり、高齢者福祉
等に力を入れていきたいと思ってい
ます。

現在、県勢発展の方向とその施策
の重点化を図るため「県政指針」づ
くりを行っていますが、強い熊本
づくり、知的欲求が満たされる郷
土づくりをするのが私の願いです。
今後とも県政への御協力をお願い
いたします。

県政トピックス

心配ごとや悩みごとなどを
お話しください。

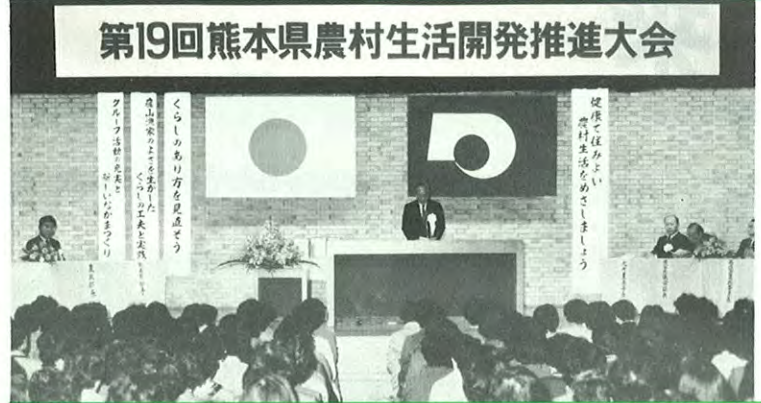
熊本こころの 電話発足。

電話カウンセラーと一緒に解決法
を考える「熊本こころの電話」(☎
九六一三五六一〇一一〇)が一月十
日開設された。
カウンセラーは専門の研修をうけ
たボランティアの方々が担当し、午
後六時から午後九時まで、年中無休
で受け付けるが、将来は二十四時間
体制を目指している。



農村婦人の知恵を集めて、 農村生活開発推進大会 開かれる。

農山漁村における婦人の役割が再
認識されるなか、「健康で豊かなむ
らづくり」を目指して、第十九回熊
本県農村生活開発推進大会が二月三
日、県庁で開催された。
この大会には、県内農山村の生活
改善実行グループ員が集い、農業生
産と農家生活の向上のために、講演
寸劇などアイデアいっぱい事例発
表や加工農産物の展示など情報交換
を行った。



県下に「白魔」到来。

一月中旬から二月にかけて、県下
は度重なる大雪に見舞われた。
休校や授業打ち切り、交通規制に
よる交通のマヒなど、県民の生活に
大きな支障をきたした。
特に、一月十八日から十九日にか
けての大雪でビニールハウスの倒壊
など農業関係を中心に二百億円を越
える被害が出た。



熊本くだものまつり 開催。

「第四回熊本くだものまつり」が二
月八日から十一日まで、熊本市の岩
田屋伊勢丹七階催し場で開催された。
会場には、甘夏みかん・ぼんかん
・晩白柚など、県内で生産される柑
橘類五百点が一堂に集められ、展示
された。
また、新品種コーナーや即売コー
ナーなども設けられ、多くの人々に
賑わった。



「熊本テクノポリス」 実働へ

二月十日熊本テクノポリス開発計
画について、国から承認(いわゆる
地域指定)のための課題が示された。
県では課題について、細部にわた
る検討を行い、テクノポリス建設協
議会理事会を開いて、回答をとりま
とめ国に提出した。
熊本テクノポリスは優れた条件を
備えており、国の評価も高く、いよ
いよ実働段階へ入った。



熊本県 友好訪中団 各地を訪問。

熊本県友好訪中団(団
長 藤本副知事外一〇八人)
が、一月二十日から二十
七日まで、中国の上海市
北京市、並びに本県が
昭和五十七年に友好提携
を結んだ広西壮族自治区
の南寧市、桂林市を訪問した。
訪問団は、各地で多くの人々と友
好親善交流を図るとともに、南寧市
では今後の両県区間の交流について
協議した。また、北京市では中国民
航総局に、熊本―中国間の国際航空
路開設について要望した。

